

マイクロサージェリーを応用した歯周組織再生療法

北島 一
北島歯科医院

抄録

Minimally invasive surgery は歯科においては Harrel と Rees (1995) ¹らにより歯周外科の際、最小範囲の創傷と僅かなフラップの挙上と軟硬組織に対する繊細な取り扱いを狙いとした MIS (Minimally Invasive Surgery) の報告がなされ、Cortellini と Tonetti (2001) ²らはマイクロスコープを歯周組織再生療法に応用することによって歯間乳頭部の一次閉鎖の高い獲得率と、平均 5.4mm の CAL ゲインを得るなど良好な臨床成績が得られたことを示した。その後 Cortellini と Tonetti (2007) ³らは低侵襲な歯周組織再生療法の術式として創傷治癒における血餅の安定を重視し血餅保護のための初期閉鎖を強調する MIST (Minimally Invasive Surgical Technique) を示し、さらに再生のためのスペース確保の考えを強調した M-MIST (Modified Minimally Invasive Surgical Technique) (2009) ⁴を考案し臨床成績の向上を得た。そして歯周組織再生療法における骨欠損に対するアプローチ方法を決定するためのディシジョン・メイキング・アルゴリズムを手術のステップごとに示している (Cortellini 2012) ⁵。本講演ではマイクロスコープ下での歯周組織再生療法について演者の臨床例を呈示しながら低侵襲なフラップデザインである MIST、M-MIST、と従来型のフラップデザインの Extended Flap それぞれの術式を解説し、様々な骨欠損に対する歯周組織再生療法の術式の選択基準やその有効性について臨床結果を通して評価したい。

略歴

1987年 広島大学歯学部卒業

1990年 静岡県磐田市 北島歯科医院開業

2008年 5-D Japan (石川、福西、船登、南先生とともに) 発足

日本臨床歯周病学会認定医

OJ (Osseointegration study club of Japan) 常任理事

AAP (American Academy of Periodontology) 会員

AO (Academy of Osseointegration) 会員